

令和 3 年 5 月 17 日現在

機関番号：11601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2020

課題番号：18K02562

研究課題名（和文）実習指導教員の学習を促す教育実習指導モデルの開発研究

研究課題名（英文）Research and development of a model for mentoring student teachers which promotes the learning of mentor teachers

研究代表者

坂本 篤史（Sakamoto, Atsushi）

福島大学・人間発達文化学類・准教授

研究者番号：30632137

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、教育実習指導を通じた実習指導教員の学びの解明を目的とした。第一に、実習指導の方法と実習指導教員の学びや力量形成の関係について、質問紙調査により学校種間で比較検討した。分析の結果、学校種を問わず実習指導教員は実習指導を通じた学びや力量形成を認識しており、実習指導方法と学びや力量形成の関係については学校種間で異なる傾向が見出された。第二に、教育実習期間中に実習指導教員に面接調査を行い、時系列に即した実習指導の形態や内容、実習指導教員の学びについて質的コーディングにより分析した。対象とした2名の教員間で共に実習指導を通じた学びが見出された一方、対照的な結果も見られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、日本の教師を対象として、教育実習指導を通じた実習指導教員の学びと、実習指導方法の関係について実証的に明らかにし、学術論文として掲載された点である。海外ではメンター教師の学びに関する学術論文はあるが、日本においては管見の限り見られず、本研究がほぼ初出であると考えられる。本研究の社会的意義は、「実習公害」が問題化される中で、実習指導を通じた実習指導教員の学びの可能性と、学びにつながる実習指導のあり方について、一定の一般性をもつ実証的知見を提出した点である。これにより、教育実習が学校現場に一定のメリットをもたらす可能性を示すことができた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to reveal the learning of mentor teachers through practice teaching. First, a questionnaire survey was used to compare the relationship between the methods of practice teaching and the learning and competence of mentor teachers across school types. As a result of analysis, it was found that regardless of the type of school, mentor teachers were aware of learning and competence building through mentoring, and that the relationship between mentoring methods and learning and competence building tended to differ among school types. Second, interviews were conducted with the mentor teachers during the period of practice teaching, and qualitative coding was used to analyze the form and content of the mentoring in chronological order and the learning of the mentor teachers through the practice teaching. The results showed that both teachers learned through the practical training, while there were contrasting results.

研究分野：教師論

キーワード：教師の学習 教育実習 実習指導教員

1. 研究開始当初の背景

(1) 教育実習は学校教員への負担感が指摘される(中央教育審議会, 2015)ことから、学校側へのポジティブな影響の検討が十分でない点である。実習指導教員が自身の実践を言語化することで省察し学ぶ機会になるという報告もある(市川・谷塚, 2016)。教員養成や研修で現場実習の増加を求める現状において、教育実習の受入学校側へのポジティブな影響を明確にし、そのための方策を示すことが重要である。そのため、教育実習指導を通して実習指導教員の学習する内容や過程及びその要因について、実証的に解明する必要がある。

(2) 教育実習が実習生の授業イメージや子どもイメージ、授業観察力の変容を促すことが実証されてきた(三島, 2007, 2008)が、実習指導の具体的過程の解明は不十分な点である。学校での実習指導は、特定の附属学校を除き、ほぼ各教員の経験に任される現状がある。よって、多様な実習指導が実践されると考えられるため、それらを分類整理する必要がある。

(3) 実習指導教員の意図が解明されていない点である。実習指導に関する質問紙調査は実施されている(米沢, 2010)が、背景にある指導教員の意図の解明は十分でない。実習指導の意図は、実習指導を通じた教師の学習に影響すると予想できる。さらに、教育実習の実態において、時期との関係も明確にされていない。教育実習期間中に実習生の様子や子どもの変化を捉えることで指導教員の認識や指導方法に変化が生じる事例(一柳・三島・坂本, 2016)もあり、学習を促す可能性も考えられる。このように実習指導期間中の指導意図などの時系列的な変化を含めた検討が求められる。

2. 研究の目的

(1) 小中学校の教育実習において、どのような実習指導がなされているか、また、実習指導教員の学びや、教師としての力量形成への影響をそれぞれ明らかにしたうえで、実習指導のあり方と実習指導教員の学びや力量形成がどのように関係しているかを実証的に明らかにすることである。

(2) 約1ヶ月に渡る教育実習指導の時系列的な変化と、それに伴う実習指導教員の学びの変化、実習指導教員の声に基づき明らかにすることである。

3. 研究の方法

(1) 小学校及び中学校教員を対象とし、質問紙調査を行った。質問紙の調査内容は、一柳ほか(2016)を基にした教育実習における指導形態の重要度に関する項目及び、教育実習指導を通じた学びに関する項目、米沢(2010)を基にした教育実習指導で身につけた教師としての力量に関する項目に加え、教職歴や実習指導経験の有無等を尋ねる項目で構成した。この結果に対し、因子分析を行ったうえで、学校種や実習指導経験の有無に分けて相関及び偏相関を算出した。

(2) 4週間の教育実習指導教員を対象に、インタビュー調査を行った。実習期間中の毎週末に、その週であった実習指導中の出来事や、それに対する振り返りなどを、半構造化インタビューにより尋ねた。得られた語りは、全て文字起こしし、実習指導の形態及び内容と、実習指導教員の学びの観点から質的コーディング(佐藤, 2008)を行った。

4. 研究成果

(1) 小中学校の教員に実施した質問紙調査(181名分)の分析から、小学校と中学校での実習指導教員の学びの比較について量的な分析を行った結果、小学校の教員のほうが中学校教員よりも、実習指導を通して自身の実践を省察し、児童生徒の理解が深まったと感じていること、一方で指導経験がある中学校教員も様々な指導が実習生や生徒理解につながると捉えていることが示された。本調査結果は、第34回日本教育工学会大会にて口頭発表した。

(2) 上記の結果に関し、教育実習指導経験者に限った再分析を行い、日本教育工学論文誌にて資料論文として掲載された。この論文では、教育実習において実習生の指導を担当する教員が、教育実習指導を通じた自身の学びや教師としてのその後の力量形成につながるかどうかについての認識を検討することを目的とした。その際、小学校及び中学校教員の認識の違いについても着目した。教育実習指導を経験したことがある小中学校の教師を対象とした質問紙調査(有効回答133名)の結果、(1) 全体的に学びや力量形成に対する得点が高く、校種間では小学校教員の方が学びや力量形成を高く認識していること、(2) 実習指導における指導形態と学びや力量形成の関連が多く見られ、特に実習生と協働して実習を進めるという指導形態が学びや力量形成

と関連していたこと、(3)校種別では、実習指導における指導形態と学びの関連については中学校教員の方が多く、実習指導における指導形態と力量形成の関連については小学校教員の方が多いこと、等が示された(以下の表1及び表2参照)。

表1 校種別にみた「教育実習における指導形態の重要度」と「教育実習指導を通した学び」の関連

		教育実習指導を通した学び											
		実習生の課題・ 負担感	実習生の課題・ 経験・既有知識 の理解	実践の振り返 り・意欲の喚起	児童生徒の理解 深化・教員自身 の学びの見取り	実習生の意欲・ 頑張りの成長の 理解	実習指導体制の 省察	実習生指導の あり方の再考					
小学校	教育実習における指導形態の重要度	実習生との協働	-.04 (.02)	.33** (.26*)	.11 (-.08)	.26* (.07)	.20 (.15)	.10 (.05)	.18 (.12)				
		具体的方法の提示	.07 (.08)	.11 (-.01)	.14 (.07)	.19 (.12)	.30* (.28*)	.12 (.12)	-.08 (-.07)				
		指示	-.05 (-.02)	.20 (.05)	.33** (.23)	.19 (-.01)	.13 (.07)	.11 (.09)	.01 (.01)				
		実践説明	-.12 (-.09)	-.06 (-.16)	.34** (.29*)	.20 (.09)	.17 (.13)	.05 (.03)	.21 (.19)				
中学校	教育実習における指導形態の重要度	実習生との協働	-.13 (-.14)	.30* (.25*)	.30* (.28*)	.31* (.35**)	.34** (.32*)	.40** (.39**)	.30* (.24)				
		具体的方法の提示	-.09 (.01)	.21 (.21)	.00 (.00)	.36** (.28*)	.28* (.22)	.06 (.05)	.06 (.13)				
		指示	-.01 (.03)	.18 (.22)	-.11 (-.10)	.16 (.15)	.21 (.24)	.20 (.20)	-.04 (.00)				
		実践説明	-.12 (-.12)	.32* (.26*)	.41** (.39**)	.28* (.29*)	.37** (.32*)	.21 (.20)	.29* (.25)				

※カッコ内の数値は「教育実習指導で身についた教師としての力量」の尺度得点を統制した時の偏相関係数

※ ** $p < .01$, * $p < .05$

表2 校種別にみた「教育実習における指導形態の重要度」と「教育実習指導で身についた教師としての力量」の関連

		教育実習指導で身についた教師としての力量					
		授業実践及び実践に 関する知識		児童生徒理解		授業設計・展開	
小学校	教育実習における指導形態の重要度	実習生との協働	.25* (.05)	.37** (.27*)	.29* (.19)		
		具体的方法の提示	.16 (.05)	.16 (.08)	-.07 (-.20)		
		指示	.24* (.14)	.33** (.24)	.05 (-.09)		
		実践説明	.18 (-.06)	.19 (.03)	.11 (-.16)		
中学校	教育実習における指導形態の重要度	実習生との協働	.20 (-.08)	.02 (-.16)	.06 (-.24)		
		具体的方法の提示	.02 (-.24)	.16 (.00)	.33** (-.14)		
		指示	-.06 (-.23)	.07 (-.02)	.07 (-.10)		
		実践説明	.19 (-.10)	.00 (-.19)	.12 (-.17)		

※カッコ内の数値は「教育実習指導を通した学び」の尺度得点を統制した時の偏相関係数 ※ ** $p < .01$, * $p < .05$

(3) 小学校教員計2名分の教育実習期間中に尋ねたインタビューデータを整理、分析した結果から、特に第1週における実習指導教員と実習生の協働的な関係づくりに着目した結果を、World Association of Lesson Studies International Conference 2019にて発表した。そこでの議論により、「協働」の概念についての重要性が海外の研究者にも着目されたと同時に、教育実習における「協働」の概念についての検討の必要性が明らかになった。

(4) 上記の点を踏まえつつ、インタビューデータについてさらに比較分析を進めた結果、実習指導教員、実習生、子どもの三項関係のあり方について2名の指導教員で対照的な結果が得られ、例えば、A教諭は子どもの課題について共に認識し、実習生からの提案を受けて学級経営に関する取り組みを協働で行った結果、自身の実践を振り返ると共に子どもの変化について認識するという学びがあり、一方B教諭は、子どもと協働しながら実習が充実するように実習環境を整え、実習生と関わる子どもの様子や実習授業時の子どもの様子を見ることで子どもへの理解を深める学びがあったことが示された。本分析の結果は、COVID-19の影響により中止となったが日本発達心理学会第31回大会にて発表申請し認められた。さらに、本研究の結果は、より丁寧な分析を加え、質的心理学研究への投稿を準備している。

(5) 質問紙による量的分析結果と、インタビュー調査による質的分析結果を統合した考察を行

い、学級経営における実習生と実習指導教員の協働により、実習指導教員の学びが促される可能性が示された。その結果は、11月に中国・北京で開催された World Association on Lesson Studies International Conference 2018にて発表した。諸外国の学校教員や教師教育研究者による国際的な視野から、研究内容に関する一定の理解が得られた上で、実習指導教員の省察を通して何を学んだかを示すことの重要性について議論した。

(6) 質問紙調査とインタビュー調査を関連させた分析について、実習指導経験のある小学校教員69名(有効回答数68)への質問紙調査の結果から分析した結果を、The World Association of Lesson Studies International Conference 2020で発表した。授業研究を中心とした教育実習を通して、指導教員が実習生と協働し、また、実習指導を通して、自身の実践を振り返ることが、授業研究や授業改善の推進につながる事が明らかになった。インタビュー結果から、指導教員自身の授業研究や授業改善の機会に実習生の参加を促したり、実習生の問いに答えることで、授業研究への取り組みを高めていることが示された。この発表に対しては、教師の学びの具体についてより明確にする必要が指摘された。

<引用文献>

- 中央教育審議会(2015) これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～(答申) 文部科学省.
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/01/13/1365896_01.pdf (2019年2月2日最終確認)
- 市川公明・谷塚光典.(2016). 教師が成長する契機に関する一考察:教育実習生の受け入れに焦点を当てて.第26回日本教師教育学会発表要旨集,90-91.
- 一柳智紀,三島知剛,坂本篤史(2016)教育実習における実習指導教師の学び—指導内容との関連に着目して—.日本教育心理学会第58回総会発表論文集:508
- 三島知剛(2007)教育実習生の実習前後の授業・教師・子どもイメージの変容.日本教育工学会論文誌,31,107-114.
- 三島知剛(2008)教育実習生の実習前後の授業観察力の変容:授業・教師・子どもイメージの関連による検討.教育心理学研究,56,341-352.
- 佐藤郁哉(2008)『質的データ分析法—原理・方法・実践』新曜社
- 米沢崇(2010)教育実習における教師としての力量形成に対する教職志望学生と初任者の意識の検討. 奈良教育大学紀要, 59(1):237-244

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 三島知剛、一柳智紀、坂本篤史	4. 巻 44
2. 論文標題 教育実習を通じた実習指導教員の学びと力量形成に関する探索的研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本教育工学会論文誌	6. 最初と最後の頁 535 ~ 545
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15077/jjet.44056	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Atsushi Sakamoto, Tomotaka Mishima, Tomonori Ichiyangi
2. 発表標題 The Formation of Collaborative Lesson Study in Teaching Practice in Japan with a Focus on its Impact on Mentor Teachers.
3. 学会等名 The World Association of Lesson Studies International Conference 2020（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Atsushi Sakamoto, Tomotaka Mishima & Tomonori Ichiyangi
2. 発表標題 How does a mentor teacher develop collaborative lesson study with a student teacher?
3. 学会等名 The World Association of Lesson Studies 2019 International Conference（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本篤史・三島知剛・一柳智紀
2. 発表標題 小学校実習指導教員の指導と学びの関係に関する探索的研究
3. 学会等名 日本発達心理学会第31回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三島知剛・一柳智紀・坂本篤史
2. 発表標題 教育実習における実習指導教員の学びの校種による相違の検討
3. 学会等名 日本教育工学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Atsushi Sakamoto, Tomotaka Mishima, Tomonori Ichiyangi
2. 発表標題 Development of mentor teachers through instructing student teachers in Japan
3. 学会等名 World Association of Lesson Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	三島 知剛 (Mishima Tomotaka) (10613101)	岡山大学・教師教育開発センター・講師 (15301)	
研究 分担者	一柳 智紀 (Ichiyangi Tomonori) (30612874)	新潟大学・人文社会科学系・准教授 (13101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------